

令和4年度 第5回 那覇市IT戦略会議

日時：令和5年3月2日(木)

場所：那覇市市役所本庁舎8階会議室

稲垣議長 それでは、これより『第5回那覇市IT戦略会議』を始めさせていただきます。審議に先立ちまして、本日の会議を公開することについて皆様に報告します。本日の会議の内容には、個人情報に関するものや、公開することにより公正さが阻害される内容は含まれませんので公開としております。公開手法についてはオンラインで配信をしております。本日は、はじめに事務局より、前回のIT戦略会議で各委員よりご指摘をいただいた内容を踏まえた対応方針について説明がございます。その後、DX推進計画の素案の報告がございます。次に、DX推進計画に対する審議会からの提言書について、内容の確認をさせていただきます。今回が最後の審議会となりますので、これまでの議論を踏まえた総括的なご意見をいただきたいと思います。考えております。それでは議題に入る前に、事務局から第4回IT戦略会議でいただいた指摘事項への対応方針について報告をお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。那覇市DX推進室の又吉です。本日もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。それでは議題に入る前に事務局から前回の戦略会議でいただいた指摘事項に対する対応方針について報告します。

事務局から前回の指摘事項について説明（＊説明内容は省略）

稲垣議長 はい、ご報告ありがとうございました。今回が最後ですので特に間違っている点がなければそのまま先に進めたいと思います。ここから議題に入るわけですが、本日は7名の委員のうち福島委員が欠席されておりまして6名の委員が出席されております。どうぞよろしくお願いいたします。それではDX推進計画の素案について事務局より説明がございます。

事務局 事務局からDX推進計画の素案について説明（＊説明内容は省略）

稲垣議長 はい、ご説明ありがとうございました。大変な力作でございまして、事務局の皆さん大変お疲れ様でした。それでは委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。基本的には今後の作成のスケジュールといたしまして、本日の会議を経まして素案が庁議にかけられて策定されるという段取りになっております。したがってこれからご意見は伺いますが、そのご意見は必ず伝わりますけれども、今ここをこう変えようとするとうちがたがつかなくなるのでご意見として伺っていきたいと思います。本日は、議論をするということではなくご意見を伺

うという形でとりまとめさせていただきたいと思います。これからお一人3分から5分ずつ、議長、副議長は後回しにして島田委員から若宮委員、中島委員、常盤木委員の順番で素案に対するご意見をいただきたいと思いますと考えております。それでは島田委員よりお願いいたします。

島田委員

おはようございます。私はこの素案を見てまず一言「すごい」ということをお伝えしたいと思います。デザイン性もそうですし、分かりやすく仕上がっていると感じています。このような計画書は、残念ながら小難しいことが書かれていそうで、住民の方になかなか手に取ってもらえないものになりがちですが、これは図や表を使ってとっても分かりやすく記載していますし、読んでいて、もし自分が市民だったらという立場で、具体的には市民の声が記載されており、そこが素晴らしいと思いました。もう一点はこの5回目の会議の中でディスカッションされたこと、意見されたことをここまでつぶさに幅広く踏襲をしてくださった上でまとめていただいている点です。毎回、このミーティングは質が高い場だと思っており、稲垣議長のファシリテーションとともに委員のメンバーそれぞれの強みと専門性がすごく出ていたのではないかと思います。最後にその観点から申し上げますと、自分自身が一番大事だと思っていること、何をするにもやはりそこに関わる人がどのようなマインドセットで行うのか、あるいは人が集まって何かやる時に大きな目的、パーパスがどこにあるのか、何のためにこれをやるのかというようなところをしっかりと抑えており、DXはとにかくシステムを入れるとか、何かをデジタルイズするとかが目標になってしまうことが多い中、那覇市は市民の皆さんにとってどういう場所になっていくのかということをきちんとブレずに捉えて、人を大事に、中心に考えていただいたことが素晴らしかったと思っております。従いまして、この素案はベストプラクティスになるのではと思いますので、他の自治体にどんどんと広げていきたいなと個人的には感じております。以上になります。どうもありがとうございます。

稲垣議長

ありがとうございます。続きまして若宮委員をお願いします。

若宮委員

若宮でございます。本当によく構築されていて素晴らしいと思います。この先は実行する段階となりますが、窓口改革とは言うけれど市役所の窓口は何回も行くこともない中で、DXで市役所の窓口が便利になるということはそんなにアピールすることではないと思います。この計画に記載されている取組は、デジタル社会の中で色んなものと連携して役所もデジタル化するという街全体の取組の中の一つだということです。そして、一つどこかがデジタル化が遅れたとしても皆でやりましょうというところがどうしても必要だと思います。それから、随分、分かりやすい表現にするようご苦労されていますが、これが大事なことでして、市民の方のご意見の中にもあったと思いますが、例えばスマートフォンの講習にしても操作手順ばかり教えてもらってもそもそもスマートフォンとは何かだとか、どういう位置づけにあるのかだとかが大事だと思います。操作手順は機種変更があると変わってしましますが、

そうではなく根本的に何をやりたいかということを分かりやすく、例えばビデオ教材等を使って皆さんに見ていただき学んでもらうことなどが必要なのではないかと思います。去年6月にデンマークへ行ってきたというお話をしましたが、そこでは、ペーパーレスを実施した際には、誰がどんなふうに困るかということを分類して対策を立てていました。よくぞそんなことがやれるものだと思いますけれど、市民サービス課という窓口を作ってデジタル化によって困っていることなど諸々の相談を受付け、説明するということをボランティアの方にも手伝ってもらって実施しており、そういう形がとても大事だと思います。また、先ほどビデオ教材とお話しましたが、例えば、緊急時にはこういったことが出来るようになるといった何か実行できるような具体例があるといいと思います。たまたまエストニアに住んでいる友人が心臓病でひっくりかえった時の話ですが、その友人がマイナンバーカードに自分が意識不明でも救急隊と警察とお医者さんに対して個人情報である病歴などを本人の許可なく見てもいいというサインをしているそうで、さっそく調べてその人の病歴とかが全部分かって応急処置をすることが出来て、救急室で目が覚めたということでした。このように具体的な分かりやすい例をビデオとかで説明してあげないと、概念的なことだけだと普通の人間はついていけなくなります。職員の方々であってもITアレルギーというほどではなくても、ITに親しみのない方もいると思いますので、そういう人達をいかに取り込んでいき、しかも市民の方も巻き込みながら、街全体のデジタルシティ構築委員会みたいな形に持っていくのがいいのかなと思っています。いずれにせよ、随分、頑張られたと拍手を送りたいです。

稲垣議長

ありがとうございました。三番目は中島委員お願いします。

中島委員

私も島田委員、若宮委員と同じく、よくまとまったものが出来ていると思います。ただちょっと違った観点からの参考意見となりますが、一つは業務効率、利便性の向上の目的としては大変良いのですが、今の社会、地球全体の課題としてカーボンニュートラルとかSDGsの観点を含めないと説得力がないと思います。単に効率向上や利便性向上だけだと那覇市だけのわがままではないか、そういう側面も出てきてしまいます。ペーパーレス化は今でこそ業務効率の向上となっておりますが、ペーパーレス化が出てきた時には森林資源を保全しようというのが最初の目的でした。テレワークにしても移動に伴う炭酸ガスの排出、環境の負荷を減らそうというのが一つの目的で、もちろん業務効率も上がり、コストも下がるのですが、それ以外の目的として、もっと社会的に地球的に意味のある取組なんだということを示す必要もあると思います。「私はデジタルが苦手だから紙がいい」と考えている人には、「森林資源が無駄になってしまうんですよ」、「地球環境に対しては負荷があるから、あなたも一緒に頑張りましょうよ」というような観点が必要なのではないかと思います。そのような観点を少し付け加えたらいいのではというのがまず一点です。それと同じことにはなりますが、誰も取り残さないという記載がありますが、デジタルになじまない人、選択しない

人、いろんな事情で選択できない人もいるのでしょうけれど、ただ自分の好みで選択しない人は、先ほどのSDGsの観点からいってそれはただのわがままだという観点も必要です。デジタルは行政に行く時だけに必要なものではなくて、社会生活全般にこれを利用することによって地球環境の負荷を下げ、皆が共生できる、人類がもうちょっと長生きできるようなところを作ろうという社会性が要求されると思います。デジタルを選択する人、出来ない人、あるいは出来ない人の中でもスキルとリテラシーをきちんとつけて差し上げればデジタル利用へと動いてくれる人もいます。とにかく行政だけでなく社会生活の利便性が上がるので、そういう意味でも、「出来ない人には出来ない人なりのサービスを準備しましょう」という「甘やかしの構造」だけではなく、もうちょっと鞭があってもいいのではないかと思います。やさしく学習する機会を提供して、やらない人をそのまま放置せずに、そういう人の為に、「行政利用を機会にデジタルを習得しませんか」というアプローチの方法もあるのではないかと思いますというのが二つ目です。それから外部人材の登用のところでCIO補佐官と一般職員のレベルの外部人材の登用とありますが、その中間にある管理職、リーダークラスのところは外部人材の登用というのがあるのもいいのではないかと思います。例えば、実際に常盤木委員はやっていますが、常盤木委員みたいな方を幹部職員として外部人材の登用というのが出来ますし、そのようなレベルの方も入れておいた方がいいと思います。一気にCIO補佐官となるとハードルが高いので一般職員との間のリーダー格、管理職クラスで外部人材の登用があってもいいのではないかと思います。非常に細かいところではありますが、多少修正は必要かなというような気がしています。以上です。

稲垣議長 ありがとうございます。地球環境のSDGs的な観点からデジタル化によってプラスの面があるという話、それからデジタルを選択しない人をどう誘導していくかという話、このあたりは記述されているかとは思いますが、それが見えにくいとしたら表現を工夫してもいいのかなと思いました。組織については、どうしてこの形になっているのか補足説明を事務局のほうからお願いします。

事務局 外部人材の登用についてはCIO補佐官とデジタル支援アドバイザーと二つございますが、中島委員がおっしゃったようなことは抜け落ちていまして、CIO補佐官の業務の役割の中に含まれているという認識でしたので、新たな設定は必要なのかなと感じております。

稲垣議長 外部人材のところは、例えばこんな形で登用していく、連携していくというイメージで記載されておりますので、これが確定しましたということではないわけではないと理解していますがよろしいですか。

事務局 はい、その認識で合っています。

稲垣議長

中島委員ありがとうございました。順番の最後になりますが、常盤木委員お願いします。

常盤木委員

ありがとうございます。デジタイゼーションとデジタルライゼーションとデジタルトランスフォーメーションの各段階の差について、出来る出来ないは別としてデジタルトランスフォーメーションとして実現したい少し長めのスパンの、市行政のアップデートのあり方ないしは市民サービスの変化のあり方といった「ありたい姿」の話と、その手前での日々のオペレーショナルな部分におけるデジタル化の進め方について理解を深めることが大事だと思います。ちなみに、私が今香川県の三豊市を中心に近隣7市町村の行政職員の課長係長クラスに対し勉強会をやっています。そこでは、若宮委員の事例もそうなんですが、他の市町村の成功、失敗事例から学び理解を深めています。例えば岩手の3・11をきっかけとしたデジタル化の話で、サーバーが流されてクラウドに移行していった話だったり、過去の書類が無くなったのでペーパーレスにせざるを得なかった話であったり、契約窓口が臨時の窓口を用意しなければならなかったのでコンビニで行政手続きが出来るよう段階に進めていった話など含めて、どういうステップでデジタル化が各地域で進んできたのかという事例がないと、なぜ那覇市でデジタル化が求められているのか職員が想像を働かせることができないと思います。どちらかというとDXの設定は社会変革だったり組織論に近い部分だったりするので、マネジメント層にとっては刺さるんですけど、そうでないオペレーションを扱っているリーダーとかは遠い話となってしまいます。そこを補完するために、例えば課長係長から見た時のデジタル化と部長格だったり副市長クラスから見た時のDXは全く意味合いが違うという話を最低、四半期ごとに二回ずつリスクリングの講座を外部講師であったり、他の市町村からや私みたいな人材でもいいので招いて研修を行うなどの取組がないと、デジタル化の話も業務効率化の話も結局やることと手段と目的が逆転する現象が必ず起きます。ここはDXのものすごく難しいところではありますが、効率化を超えた自分たちのプロセスそのものが本当に必要なのかを見直すために、例えば、第何週のこの会はオペレーションについて考えるのではなく、自分たちがやっていることを定期的に羅針盤の方向性を見直す会として、実際にオペレーションを進めていく会と定期的に分けて実施することが必要だと思います。このあたりのテコ入れをどういうタイミングやスケジュール感でやるか、あとは、外からの外気をどのタイミングで取り込むかみたいな設計をすると、今やっていた皆さんの要素とこの計画がより完成度の高いものになると見受けました。以上です。

稲垣議長

ありがとうございました。今の常盤木委員のご意見については、ご意見としてどういう形で短い言葉で表してどこに盛り込むかということは、この後調整を個別にさ

せていただきたいと思います。この後の次の議題で審議会からの提言書というのがございますので必要であればその中に文言を入れ込むというようなことも出来るかと思っています。どなたかご発言がございますか。

若宮委員 一つ付け加えさせていただきたいのですが、今キャッシュレス化がものすごく進んでいます。これが進んでくると銀行の取引とか金融機関取引をオンラインバンキングにしたいという人が増えてきますので、このデジタル化に便乗するよい機会だと思います。現金だと自分のお財布の中に一万円札がまだ2枚あるから今日お昼おごってもいいとか、今日は一枚しかないからコンビニランチですませようとか分かるんですが、キャッシュレスになると財布の中が見えないのでどうしてもオンラインバンキングをやらざるを得なくなってきます。ですから、今猛烈にキャッシュレスが進んでいまして、キャッシュレスのレジがだんだん増えていって現金のレジの方が少なくなってきました。特に沖縄の場合、観光の関係があるので海外の方なんかもキャッシュレスがいいかと思っています。

稲垣議長 今回の推進計画は行政DX中心の話なので、マイナンバーカードの普及活用を大きく取り上げていますが、これからキャッシュレス決済をどのように社会の中で根付かせていくかということについては適当な記述場所がなかったんですけれども、そういった時代であるということを盛り込んでいきたいと思っています。ありがとうございました。続いて、島袋副議長お願いします。

島袋副議長 今までの議論が反映された素案になっているかと思っています。関連で委員からの指摘があったように市民の視点をどう業務に取り込んでいくかというところで、これまで公務員は民間と比べて職務職階制度という独特のものが入っていて、日本のなかでは職務給とかジョブ型に近い働き方だったと思います。「ジョブ型」とは単にメンバーシップ型の対語ではなく、公務職員に採用されてきた職務と責任に応じた給与払い原則という、職務遂行能力（職能）に応じた給与支払いを採用してきた民間企業と比較して、より職務主義を採ってきているということです。これを具体的に定めているのが職務分掌規定というものだと思いますが、そこには管理のマネジメント能力はこうしてくださいとか、オペレーションのところはこうしてくださいということが規定されており、それに則って業務をしているものだと思います。ただ、これからの市民サービスに要求されているのはなんだろうという時に、その規定にデジタルのスキルを新しく加えなさいと言っているのか、これまでの職務分掌をデジタルを運用しながらやりなさいと言われているのか、また、働く方にとっては全く新しいものを身につけないといけないのか、それとこれまでのことをなんとなく個々人のスキルによってこ

なしていけばいいのかといった不安なところがあるのではないかと思います。これまでの業務のスキルとデジタルのスキルと少し分ける必要があり、19ページの6章の2のところでDX推進に必要な人材像のところにこういうスキルを求めていますといった内容が記述されていますが、これが従来の職務分掌とこれから身に着けてほしいスキルと少し混在して記述されている印象があって、そこが整理されるとより分かりやすくなって、職員の皆さんが自分は何が要求されているだろうというのが分かりやすくなると、これからDXに取り組んでいくことに対し、より安心感が増すのではないかなという印象を持っています。疎い人間にとっても何が要求されているんだというのが分かりやすくなるように記述を整理すればすごく分かりやすくなるような印象を持っています。以上です。

稲垣議長

19、20ページに人材育成確保についての記述がありますが、今の島袋副議長のご意見で何か見直せるところがないか再確認をしたいと思いますし、もうひとつは37から38ページで誰もがデジタル技術の恩恵を享受できるようになるというタイトルで取組の内容、目標が記載されております。この辺の記述についても合わせてみて市民がどのように主体的に関われるのかというところが分かりやすくできればと思っています。最後に私のコメントを簡単に申し上げますけれども、全体的にとっても分かりやすくまとまったと思います。目標値なども全部を数値化することはなかなかできないのですが、可能な限り数値目標を置いているものいいし、全体のバランスがいいと思います。ただし全体のバランスが良いものは、ややもすると特徴のないものになりがちですが、これは基本的な計画だから賛成、反対に分かれてしまうと困りますし、職員にとってはよし、ここから頑張るぞという気持ちが出てこないといけないし、市民にとってはこれから那覇市が変わるぞという期待感につながらなければならない。だからこの文書に関してはちょうどいい塩梅じゃないかというのが私の見方です。ただ一か所だけ検討していただきたい箇所が、7ページの左下に絵が描いてあって、目指す姿とソリューションとインフラと「変わらない那覇らしさ」という書き方をしているんですが、デジタル化しても那覇は変わりませんよというのは、私はちょっと違うのではないかとと思っています。これは「変わらない那覇らしさ」ではなくて「那覇らしさの維持発展」、那覇の良さをなくさないだけでなく新しい那覇らしさを作っていくためにデジタル化があるんだという記述にして、目指す姿と心がソリューション、インフラを介して両立するような書き方が良いのではないかなと思いました。ちょうど今、那覇市の総合計画が長期の10年計画の5年が終わるということで見直しの作業が進んでおります。その中ですべての分野でDX化を進めるんだということがうたわれておりまして、そういう意味では今後その記述をもとに色々な仕事が発生してくるでしょうし、またDX化についての基本的な考え方もそちらが上位計画として記述され

ておりますので、そこと重複しないようにする必要がありと考えております。重複しないと言っても上位計画で書かれていることと整合性をもって、それを引き取ってということがありますので、総合計画の最新の段階で是非確認をお願いします。では素案についてはご意見をいただいたという形にさせていただきます。続いて、議題の2に移らせていただきますが、その説明を事務局からお願いいたします。

事務局 事務局から提言書について説明（＊説明内容は省略）

稲垣議長 今のご説明で、提言書に付した皆さんからのご意見は、素案に十分盛り込めていない部分についての箇条書きがあって、これも合わせて提言という形で我々から答申するという形にしたいと思っております。全体としては本日説明があった那覇市DX推進計画素案については、本日のバージョンから軽微な修正はなされるかもしれませんが、基本的にはこの状態で全体として是認できるという、まずは全会一致で議決をいただけると大変ありがたいなと思っているところです（異議なしの声あり）。ありがとうございます。今事務局から説明があったそれぞれの留意点についても、はっきり本文中に「但し、委員から留意を望む点もみられたことから、これらについての意見も附して本審議会の審議結果として提言します。」という形で市長に手交したいと考えております。この提言書について、これは自分の意見だけちょっと違う言葉に変えてもらいたいなというご希望とかあるかもしれませんので一応一人一人確認させていただきたいと思います。島田委員ご発言はありますでしょうか。

島田委員 私は特にはございません。大事にしているところをちゃんと切り取ってくださっているの、ありがたいなと思っております。大丈夫です。

稲垣議長 ありがとうございます。若宮委員は先ほどのご発言も踏まえて何かこの中で変更はありますか。

若宮委員 結構でございます。ただ、もうちょっと那覇市全体として地域が活性化するためにこういうことをやるんだといった表現を押し出してもいいんじゃないかなと思いました。全体的には素晴らしいと思います。

稲垣議長 提言の本文の中で「那覇の未来の為に」とか前向きな言葉を私の責任で入れさせていただきます。

島田委員 今の若宮委員の発言に賛同で、全体のトーンという意味で言うと、そういうのがあるといいなと思いました。一番最初のところでちゃんとお金がかかっているののでしっかりやってねというのは大事なんだけど、ちょっとドライな感じがしてしまいます。やっぱりこれは何のためにやっているのかというところに若宮委員のポイントである、市として市民の生活の発展があるという何かそこに前向きなものがあって、やっていくときにはしっかりお金をちゃんと把握をして経済的なことも見ていきますというふうになるとよりいいなと思いましたので、意見として言わせていただきます。

稲垣議長 分かりました。那覇市のスローガンとかそういったこととつながる前向きな言葉を何か入れたいと思います。それでは中島委員いかがでしょうか。

中島委員 島田委員の発言は要するに最初にパーパスが欲しいなということだと思います。収益性とかはもう少し後で、それは必要不可欠だけどビジョンとして掲げる第一歩としてはどうかなということだと思います。これからの那覇市をデジタルを利用して豊かなものにしていくというようなパーパスが必要で、それが前面に出るほうがインパクトがあるということじゃないかと思います。それと同じことにはなりますが、社会の豊かさとともに、やはり那覇市民がどこに向かうのかを提案する際に不可欠なのはSDGsです。火力発電所で化石燃料をじゃんじゃん燃やしてエネルギー豊富な那覇市にしますと言っても、誰もそんなことに賛成しないし、世界も評価してくれない。これから向かうべき目標には「環境を重視した社会」も不可欠で、その実現には「DXが必要」という点もどこかに明記してほしい。那覇市がDXで達成しようとする目標の中にSDGsがあり、DXとSDGsというのは別の物ではなくて実は同じ目的に向かう二つの側面なので、その効率等々を収益性だけを考えるのではなくて、少なくとも地球が存続出来るような行政システムを実現し、市民もそこに引っ張っていくといった表現があると良いと思います。全体的には賛成です。

稲垣議長 今の発言については、後で続きをします。まずご意見一巡うかがいます。常盤木委員、何かご意見ございますか？

常盤木委員 全体としては賛成なんですけど、どこに辿り着きたいかの部分の提言として市役所と市民の新たな関係を目指すみたいなことが表現としてもうちちょっと本当はあってもいいとぼんやり思っていました。今も中島委員の話とか島田委員の話とか聞いていて感じるのは、行政機能の拡張の先にあるものが何なのかというところがまだぼんやりとしています。那覇市自体をどうしていきたいのか意思表示のレベルにする

のか、そうではなくて単なる行政機能のアップデートとしてのデジタル化の話なのかということです。DXのXを使うにはちょっと弱いというのは、率直に言うはずと感じていて、トランスフォームしていくというのは行政機能としての役所自体が変わることで市民だったり、市の持っている文化的資産の保持保全何々の形成を目指すみたいな前文の2、3行のレベルのアップデートの話だと思いますが、それが盛り込まれていない部分は結構大きいんじゃないかなと思います。それ以外の部分の各条文に関しては皆さんの意見がバランスよく盛り込まれていると思いますが、前段の宣言としてそういった宣言があってもいいのかなという気がしました。

稲垣議長 ありがとうございます。先ほど私が申し上げた上位計画の総合計画の見直しの中に行政DXの話がちょっと出てきますので、その理念がこちらにつながるようにすると私は解決できそうな気がしております。島袋副議長お願いします。

島袋副議長 これまでの議論を全部組み込んだ形で意見反映されていていいんじゃないかなと思いました。この間ですね、先ほどの発言もそうですけれど、職員さんの意識の醸成、変化がこれを進めていくというエンジンになるはずですので、提言書の中でも意識を変えること自体が難しいということに捕らわれないでというところを何とか制度で、仕掛けづくりで変更していけないかなという視点で見てきました。それに関してはこの提言書で私は網羅されているかなというふうに感じています。全体としてどの方向に向かっていくという今後も継続して追及していけない大きなテーマでないかなと感じていますので、毎年の見直しでその意識を変えるのに仕掛けとかが必要だと思います。例えば女性の管理職比率とか数字に捕らわれている内はまだまだダメだという意見はあるかもしれませんが、まずは一つ一つ小さな目標を立てながら、それをクリアしながら意識の変革につなげていくというところで、今回の素案も提言書も大まかには網羅されていると思っています。以上です。

稲垣議長 はい、ありがとうございました。皆さんの意見をなるべく取り入れたいのでどうしたらいいかと考えながら伺っていたのですが、一つの方策が上位計画の行政DXの記述と整合をとるということと、もう一つは大胆な言い方ですが、中身がDX推進全般に関わる提言から入っているんですが、分野別の話を先に書いて、最後にまとめる的にその他のDX推進全般に関わる提言ということで、最後に一ブロック目を持ってくるとお金の話が最初に来ないし二つ目三つ目は前向きな内容になっているのでこれで締めくくるとすごくまとまりが良くなるんじゃないかなと思いました。ここで議論していると時間がかかってしまうのでそのような方向でみなさんのご意見を取り入れたいと思っていますので、この後調整について私にご一任いただけると

ありがたいと思います。

若宮委員 結構なんです、やはり市役所のデジタル化が那覇市全体のデジタル化につなげて那覇市全体の活性化につながるというような趣旨をまず冒頭をお願いしたいと思います。

稲垣議長 若宮委員がおっしゃっているその意味を表す言葉がどこかにあるはずなので、新しい言葉でなく既存のものと同じ言葉で表現できればと思います。それでは議題の2につきましてはそういった形で最後の仕上げをしていただくということでご了解をいただきました。それでは最後にDX推進計画書に掲載するコメントというのを今事務局で考えているらしいのでその説明を最後にしていただきたいと思います。

事務局 事務局から本計画書に掲載するコメントの作成依頼について説明
(＊説明内容は省略)

稲垣議長 これは誰に対して公開されますか。

事務局 補足いたします。先ほどの提言は市長に対する提言ということで、あまり一般的に目に触れるものではございませんが、今お願いした内容に関しては計画書に合わせて記載し市民に見える形で残したいと考えております。必ずしも内容として計画の通りでなくても補足の意見とか改善の提言でも構いませんのでそういったご意見をお願いします。

稲垣議長 場合によっては那覇市の未来に対する期待とか愛という内容でもおかしくないわけですね。

事務局 そのとおりでございます。

稲垣議長 はいわかりました。少し幅広い意味で計画書に付帯して市民が見られるような形で公開されるということでございますが、どなたかご質問がありますか。なければ、最後に島袋副議長より締め言葉の言葉を頂きます。

島袋副議長 DXと言われて久しいですけれども、市民と職員と事業者もありDXの流れはそれぞれに体感しているところはあると思います。インボイス制度ですとか個人のフリー

ランスの方なんかもなんなんだろうというふうに話を聞くこともありますけれど、市民の目線で利用しやすい市民サービスが、また働いている職員の皆さんが働きやすくなった、本務に集中できるようになったとか嬉しい声がこのDXという言葉のキーワードの中からどんどん生まれてきたらいいなと思います。まだ模索の最初の段階になるかと思いますが委員のみなさんのお知恵を借りながらすごく私自身勉強になって、これからの他の市町村も考えていけたらなと思いました。皆さんどうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

稲垣議長 ありがとうございました。私も最後ですから一言だけ言いますが、本計画によって、那覇らしさがより那覇らしくなって、これまでの那覇らしさを維持するとともに、新しい那覇らしさがそれに加わっていくという火種になることを期待しております。皆さん長期間にわたってご協力いただきありがとうございました。お礼申しあげます。進行を事務局にお返しします。

事務局 議長から締め挨拶をいただいた後に恐縮ではありますが、今回すごく勉強になりました。すごく感謝しております。様々な意見をいただいた中で事務局としてここが足りない、ここはもっと目指すべきと浮き彫りになってきましたので、計画を作って終わりではなく着実に一つずつ進んでいけるようにやっていきたいなと思っております。この度は本当にありがとうございました。

稲垣議長 大変お疲れ様でした。皆さん今後ともよろしく願いいたします。